会長の時間 第 23 回 地方創生と SDGs

日出ロータリークラブ
会長　加賀山 茂

はじめに

これまでの会長の時間で，私は，ロータリークラブの基本的な理念について，「四つのテスト」の意味（第 1 回），「ロータリーの目的」の意味（第 2 回），「五大奉仕部門」（第 3 回），「公平とは何か」について，タクシーの相乗りの場合の料金の公平な負担について検討させていただき（第 5 回），「微笑みを微笑みで返す」とか「いただいたら，お返しする」とかという共感脳の抱える「やられたら，やり返す」というジレンマ（第 6 回），偽りの親睦と四つのテストの関係（第 7 回），新型コロナウイルス感染症対策（第 8 回），善行とは何か（第 9 回），善行褒章とその基準（第 10 回），善行褒章基準の日独比較（第 11 回），子ども食堂（第 12 回），地方創生（第 13 回），コロナ禍における国民の三大義務の支援（第 14 回），機会の三つの扉の応用（第 15 回），前期の反省と後期の抱負（第 16 回），今年度後期の抱負と提案（第 17 回）では，Web 例会の可能性について話し，前回には，日出ロータリークラブが，近隣のクラブに先駆けて対面とリモートを併用したハイブリッド例会を実現した意義，SDGs と日出ロータリークラブとの関係（第 19 回）について，オンライン会議を介したのを契機に，Zoom の使い方（第 20 回），日出町で問題となっているムスリムの墓地の問題（第 21 回），子どもの能力と善行褒賞（第 22 回）について，話しました。

そして，いずれの回においても，本年度の RI 会長（Holger Knaack 氏）のテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」を活用させていただき，3 つの扉の色に即して，赤い扉は，「親睦（和らぎ睦び）」として，黄色の扉は，「職業倫理の向上」として，青の扉は，「次世代への奉仕活動の実践」として整理させていただきました。

今回は，日出町の町会議員を外来卓話にお招きしておりますので，日出町の発展と SDGs の関係について，話したいと思います。

１．私たちは日出町の 10 年後の姿を想い描いているか

(1) SDGs が問う 10 年後の私たちの姿

新型コロナウイルス感染症がもたらした劇的な影響を経験して，私たちは，密が避けられない都市生活，特に，絶対的優勢を誇っていた東京（首都圏）が悲惨な状況に陥ったことを見て，都市型の生活が必ずしも人間を幸福にするわけでないことを実感しました。

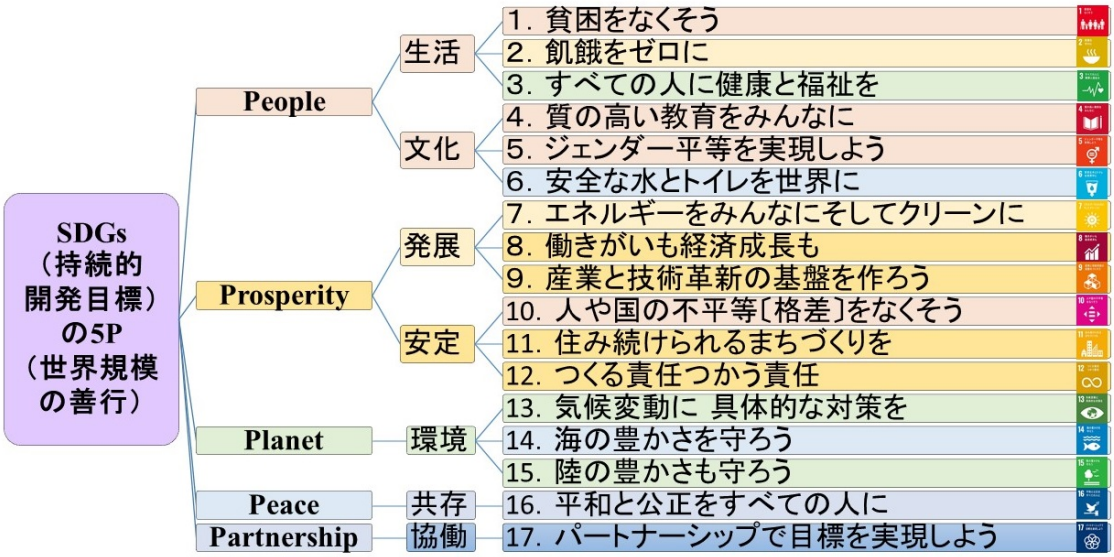
しかし，日出町のような災害が少なく，海の幸，山の幸に恵まれた地方が都市を凌駕し，人口の流出を防いでくれているのか，10 年後の日出町が発展しているかどうかについては，自信を持てないのが現状ではないでしょうか。

10 年後といえば，人口の多い団塊の世代は，平均寿命を超えることになりますが，その時に，その世代の人々は，年金だけで幸せな生活を送ることができるのでしょうか。

また，10 年後には，今の小学 2 年生が大学受験に直面し，中学 1 年生が大学を卒業して社会に巣立つ時期です。その時に，彼ら／彼女らは，日出町に住むことを選択するでしょうか。

(2)　日出町の 10 年後の発展の指標となる SDGs

日出町の住民が，10 年後にも安心して住み続けることができるためには，何が必要なのか，10 年後の生活について，世界の国々が目標としている SDGs（持続可能な発展目標）を参考にして，この問題について考えてみましょう。



SDGs（Sustainable Development Goals：持続的開発目標）は，人類が地球資源の 1.69 倍を使っている現在の状況は，人類を破滅に向わせているとの反省の下に，人類の生活を根本的に改革し，地球資源の 1 個分の活用に戻そうとする 10 年後の世界を見据えた提言です。

SDGs は，17 のゴール（大きな目標）と，169 のターゲット（具体的な目標）から成り立

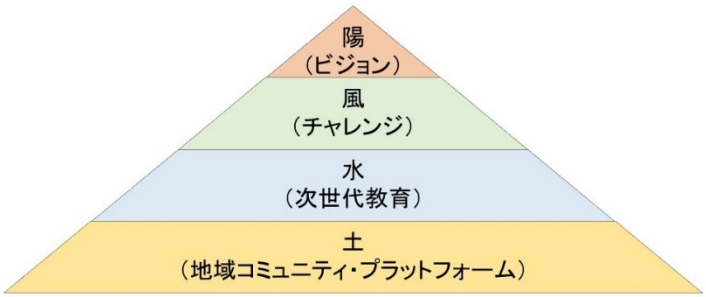
っています。しかし，17 も 169 も多すぎる数なので，国連は，17 の目標を**５つの P**（People（人），Prosperity（繁栄），Planet（地球），Peace（平和），Partnership（パートナーシップ））にまとめてくれています。

しかし，**５つの P** のうち，People と Prosperity の２つの項目には，6 個ものゴールが入っており，まだまだ，項目の数が多すぎます。

そこで，私は，５つの P の項目の中身を最大でも 3 項目に収まるようにまとめ直して，以下のような図を作成してみました。この図だと，1 項目には，最大でも 3 つの項目しか入っていないため，SDGs の理解がスムーズに進むと思っております。

２．SDGs から見た地方創生のヒント

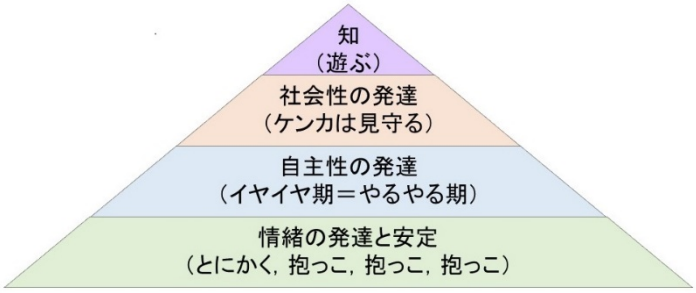
(1) 地方を生態系としてみる



地球を生態系として見ると，すべての土台となる土地，生物を育てる水，生命を飛躍させる風，すべてを包む太陽という構造を有しています（筧裕介『持続可能な地域の作り方－未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』英治出版（2019/5/10）参照）。

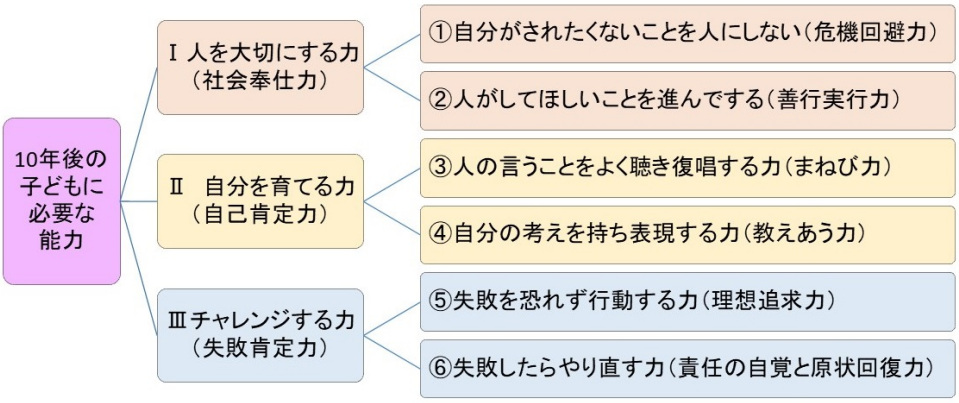
それとの対比で，地方を眺めると，土台となるのは，コミュニケーションを実現するためのプラットフォーム，次世代を育てる教育，教育を実践させるチャレンジ，すべての活動に生命を吹き込むビジョンであることがわかります。このビジョンとして注目を集めているのが，SDGs の 17 のゴールと，169 のターゲットなのです。

(2) 10 年後の子どもに必要となる 3 つの能力



若い世代を育てるためには，SDGs と同様に，少なくとも，10 年後の世界を思い描いて，教育目標を考える必要があります。

私は，0 歳児教育から始めて，家庭教育から，保育・幼稚園教育，初等教育，中等教育において，どのような研究が進行しているのかを調べてみました。そうすると，どの教育段階においても，以下の３つの教育目標（①人を大切にする力，②自分を育てる力，③チャレンジする力（木村泰子『10 年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方」』青春出版（2020/11/20）参照））が重要視されていることに気がつきました。



３．日出ロータリークラブの日出町への貢献策

日出ロータリークラブの奉仕活動の究極の目標は，日出町の町民の義務（教育を受けさせる義務（**憲法 26 条 2 項**），勤労の義務（**憲法 27 条 1 項**），納税の義務（**憲法 30 条**），環境に対する義務）を町民が滞りなく履行できる仕組みを構築するよう，町に対して提言することだと，私は考えています。

(1) 貧困をなくそう（クリーンエネルギーの調査と電気代無料）

貧困の原因は，生存のための費用が高すぎる点にあります。水道代と電気代をゼロにする工夫をすれば，生活は楽になり，非常に多い滞納者をゼロすることも可能です。

日出町には，バイオマス発電，水力発電（水路発電，潮力発電），風力発電（洋上発電），太陽光発電等によるクリーンエネルギー源を有しています。

これらの潜在的なエネルギー源を有効に開発し，活用すれば，電気代を無料化することが可能となります。

このための調査研究を日出ロータリークラブで行い，日出町に提言すべきだと思います。

(2) 飢餓をゼロに（子ども食堂の建設と運営）

わが国には，絶対的貧困者（1 日 1.9 ドル（日本円にして約 200 円）未満の生活者）はほとんどいないものも，相対的な貧困者はかなりの率を占めています。

相対的貧困とは，全世帯の所得の中央値の半分以下の生活者をいいます。日本の場合，所得（等価可処分所得）の中央値は，244 万円（2015 年調査）なので，その半分以下の年収 122 万円以下が相対的貧困となります。

厚生労働省の調査によると，日本では，相対的貧困が全人口のうちに占める割合は 15.7%。日本人の約 6 人に 1 人が貧困層に該当する計算になります。

OECD 加盟国の平均は，11.8%（2019 年 8 月）なので，日本は先進国の中でも，相対的貧困の割合がかなり高い国となっています。また，わが国では，　7 人に 1 人の子どもが相対的貧困に陥っているといわれており，給食だけで一日の栄養を摂取している子ども，給食を姉妹兄弟に分け与えるために，給食を食べずに持ち帰る子どもいるのが現状です。

ですから，日出ロータリークラブの次年度からの計画に，子ども食堂の建設支援，キッチンカーを使った子ども食堂の運営支援を行うべきだと考えており，この抜本的な支援を日出町に提言すべきだと考えています。

(3) 質の高い教育をみんなに（教員のイエナプラン・オランダ研修への派遣）

質の高い教育をみんなが受けられるためには，教員の質の向上が必要です。今年は，コロナ禍で実現できませんでしたが，コロナ禍が収まった暁には，日出ロータリークラブで実行するイエナプラン・オランダ研修への教員の派遣を強力に推し進めるとともに，日出町への支援を要請すべきだと考えます。

(4) 働きがいも経済成長も（起業支援）

日本の学生は，卒業後に起業する割合が非常に低いのが特色です。大学で，企業に役に立つ教育を受けていないからです。日本の大企業が行き詰まりを見せている現状において，義業を支援する機関を創設し，日出町で働く若者を増やすべきです。この点も，調査権有を行って日出町に提言すべきだと考えます。

(5) 住み続けられるまちづくりを（仮想地方通貨発行による財源の確保）

まちづくりには，知恵とお金が必要です。国の補助金を頼るだけでなく，デジタル化され，ブロックチェーンで偽造を防止する地方通貨を発行し，MMT を活用して，国に頼らない財源を創出すべきだと考えています。

４．参考文献

・伊藤美佳=齋藤恵（マンガ）『マンガでよくわかるモンテッソーリ教育×ハーバード式子どもの才能の伸ばし方』かんき出版（2020/2/17）

・新井紀子『AI に負けない子どもを育てる』東洋経済新報社（2019/9/19）

・石川一郎『2020 年からの新しい学力』SB 新書（2019/9/15）

・石戸奈々子編『日本のオンライン教育最前線－アフターコロナの学びを考える』明石書店（2020/10/1）

・大川繁子『92 歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て』実務教育出版（2019/9/11）

・落合陽一『2030 年の世界地図帳－あたらしい経済と SDGs，未来への展望－』SB クリエイティブ（2019/11/22）

・カイム・ペレルマン（江口三角 訳)『法律家の論理―新しいレトリック』木鐸社（1986）

・加賀山茂『現代民法　学習法入門』信山社（2007）

・加賀山茂「コロナ時代の教育と国民の義務に対する支援の必要性」『法と経営研究第 4 号』信山社（2021 年 1 月）

・筧裕介『持続可能な地域の作り方－未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』英治

出版（2019/5/10）
・蟹江憲史『SDG s （持続可能な開発目標）』中公新書 (2020/8/20）
・岸見一郎『アドラー心理学入門－よりよい人間関係のために』ベストセラーズ (1999/09)
・木村泰子『10 年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方」』青春出版（2020/11/20）
・西 剛志『脳科学者が教える子供の自己肯定感は 3・7・10 歳で決まる』PHP 研究所（2020/4/2）
・ドナ・ヒックス（ノ・ジェス (監修), ワークス叔悦 (訳)）『Dignity ディグニティ 』幻冬舎（2020/3/2）
・平川理恵『クリエイティブな校長になろう－新学習指導要領を実現する校長のマネジメント－』教育開発研究所（2018/4/6）
・福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社現代新書（2007/5/20）
・福岡伸一『生命と食』岩波ブックレット（2008/8/6）
・福岡伸一『できそこないの男たち』光文社新書（2008/10/20）
・福岡伸一『せいめいのはなし』新潮文庫（2014/11/1）
・福岡伸一『新版 動的平衡 1－生命はなぜそこに宿るのか（生命とは何か）－』小学館新書（2017/6/5）
・福岡伸一『新版 動的平衡 2－生命は自由になれるのか（生命はどこから来たのか）－』小学館新書（2018/10/8）
・福岡伸一『動的平衡 3－チャンスは準備された心にのみ降り立つ－』木楽舎（2017/12/1）
・福岡伸一『最後の講義 完全版』主婦の友社（2020/3/31）
・幕内秀夫『子どもをじょうぶにする食事は，時間も手間もかからない』ブックマン社（2019/10/10）
・南博=稲場雅紀『SDGs－危機の時代の羅針盤』岩波新書（2020/11/20）
・宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』新潮新書（2019/7/25）
・諸富祥彦『スマホに負けない子育てのススメ』主婦の友社（2018/9/30）
・リヒテルズ直子『今こそ日本の学校に！イエナプラン実践ガイドブック』教育開発研究所（2019/9/1）
・リヒテルズ直子『手のひらの 5 円玉－私がイエナプランと出会うまで－』ほんの木 (2020/10/21)
・ジェレミー・リフキン（柴田裕之訳）『限界費用ゼロ社会－＜モノのインターネット＞と共有型経済の台頭－』NHK 出版 (2015/10/27)
・ジェレミー・リフキン（柴田裕之=伊藤陽子訳）『スマート・ジャパンへの提言－日本は限界費用ゼロ社会へ備えよ－』NHK 出版（2018/4/25）
・L・ランダル・レイ（中野 剛志=松尾 匡・解説, 島倉 原=鈴木 正徳・訳)『MMT 現代貨幣理論入門』東洋経済新報社 (2019/8/30)
・渡辺信一『AI に負けない「教育」』大修館（2018/8/1）